



学校だより

# はと広場

6月号

令和元年5月31日  
さいたま市立北浦和小学校  
TEL 048-831-2463

## よ 善き行い 善き心

校長 益子 聡

### ◆ 履物(スリッパ)を揃える

5月20～21日の2日間、6年生は日光への修学旅行に行ってきました。旅行中、全員が食事やふくべ細工作りをするホテルの大広間の入り口で、友だちが脱いだスリッパ100足余りを、みんなが部屋に戻るときに履きやすいようにと、向きを直してきれいに揃えている子どもたちを見ました。引率の教員が言葉をかけたのではないのに、黙々とスリッパを揃えている子どもたちの姿を見て、私も心があたたまる気持ちになりました。

〈善いことをしよう〉〈悪いことはやめよう〉。人の生き方の根本は、突き詰めればこの二つに尽きると思います。

悪い行いについて〈人の迷惑になることはやめなさい〉と教えられることがありますが、これだけでは〈誰にも迷惑をかけていないのだから、これくらいはよいのでは…〉と考えがちになり、十分とは言えません。私はどちらかといえば〈善いことをする〉ことに力点を置くことにしています。先の子どもの行いは、生き方の根本が身についていることの表れだと思いました。

### ◆ 積善と陰徳のすすめ

今から400年ほど前、中国の明の時代の学者、袁了凡が自分の人生を振り返りながら、自分の息子「天啓」のために書き残した家訓ともいえるべき本があります。タイトルは『陰鷲録』。了凡が伝えたかったことは——人は小さなことでもいいから善いことを行うこと(善行という)を日々積み重ねること(積善という)で、自分ばかりでなく他人をも幸せにすることができる。それも、人の目に触れるようにするのではなく人に知られないように行う(陰徳という)のだ——ということ。この書物が発するメッセージは、たくさんの人々の心に響きました。『陰鷲録』は江戸時代に日本に伝わり、わかりやすい日本語に翻訳して出版され、最近『子どもたちへ 積善と陰徳のすすめ～和語陰鷲録意識～』(梓書院)という本も子ども向けに作られました。

子ども向けの本の中には、おもしろい話が載っています。日々の自分の行いを振り返り、善い行いの数から悪い行いの数を差し引き、善い行いの数だけを合計し、自分の善行を積み重ねていく。そうすることで、人生に必ず幸運を招くということです。例えば、一日の中で人のために善行を一つしたら「一善」、三つしたら「三善」と善行はカウントされます。しかし、もしここで悪い行いをしたら、誰かの悪口を言った「一悪」、公共のマナーを守らなかった「一悪」と「三善 マイナス 二悪」で、その日の善行は「一善」となるのです。

了凡は、日々の善行を数え上げ、10年かけて三千もの善行を積み上げました。すると、妻との間に待望の男の子を授かりました。その子の名前が「天啓」です。

本の後半には、善行に励んだ人たちの事例がたくさん紹介され、すべての人に共通しているのが、子や孫、子孫に福が訪れているということです。巻末には〈善い行い〉と〈悪い行い〉の点数が次のように紹介されています。

「善い行いの例」としては、

- ▶ 他人に対して日常の小さな親切行為をする……………「一善」
- ▶ 善行の方法を教え、善い行いをする仲間を増やす……………「一善」
- ▶ 公共に役立つ募金活動をする……………「十善」
- ▶ 人の命を救う……………「百善」

など、善行のレベルが高くなると点数も高くなります。

「悪い行いの例」としては

- ▶ 暴力を振るい、人に怪我をさせる……………「五十悪」
- ▶ チェーンメールなどでうその情報を流し、周囲を混乱させる……………「十悪」
- ▶ 人の悪口をいって人を傷つける……………「五悪」
- ▶ 人の善い行いの邪魔をする……………「三悪」

などが紹介されています。

〈善い行い〉のもとになるのは〈どうしたらあの人喜んでくれるか〉と想像する力です。誰もが一日のどこかで、そんな想像力を働かせることができたならば、子どもも大人も“穏やかで潤いのある毎日”を送ることができるのではないのでしょうか。

(\*本稿の内容は、さいたま市が取り組む「いじめ撲滅強化月間」との関連を図りました。)